

活性化の余地を残す社債発行市場

—2017年の市場動向—

佐藤 淳

■ 要 約 ■

1. 2017年の社債発行市場は活況を呈し、マイナス金利政策が始まった前年同様に高い水準の発行実績を残した。金融政策の継続と金利水準の安定により、発行年限の長期化や高水準のハイブリッド債発行等、前年見られた傾向が継続した1年であった。
2. 新たな取り組みとして、民間企業が事業資金を用途として発行する初のグリーンボンドが登場した。こうした社会貢献を重視する潮流が、資金調達における資本市場活用のインセンティブを更に高めていくか、注目される。
3. 一方で、良好な環境が継続する中であっても、もう一段の社債市場規模の拡大までには至らなかった。発行企業の裾野拡大は限定的であり、ハイイールド債市場も進展が見られない。
4. 将来の金融政策転換等に伴う調達環境変化に備え、企業が資金調達手段の多様化を進めることの意義は大きい。こうした発行企業側の行動変化が期待される。
5. 運用側に着目すると、家計金融資産の預貯金偏重是正の受け皿となる社債投信は、個人投資家にとって有効な分散投資対象であり、特に高齢者には重要となるインカムゲインの源泉となる。さらなる「貯蓄から投資へ」の推進と社債発行市場の活性化が期待されよう。

I. 2017年の社債発行市場の概要

1. 前年に引き続き高水準の発行規模

2017年の社債発行市場は、2016年2月に開始された日本銀行のマイナス金利政策によって新たな段階に入った金融緩和を背景に、良好な環境が継続した。企業の積極的な資金調達姿勢は持続し、2017年の社債発行額は11兆2,735億円で、高水準であった前年を若干上回る規模となった。この金額は、日本の社債市場において1998年と2009年に続く過去3番目の水準である(図表1)。また、2年続けて社債発行額が10兆円を超えたのは史上初めてのことである。